

採材検討会 大槌・気仙川流域の林業労働災害防止講話

令和6年9月6日に、三陸中部森林管理署と大槌・気仙川流域森林・林業活性化センターとの共催により、住田町の火ノ土山国有林にて「採材検討会及び大槌・気仙川流域の林業労働災害防止講話」を開催し、管内の林業事業者や市役所の林務担当職員など68名(当署職員含む)が参加しました。

はじめに、東北森林管理局青森事務所より、市場動向や、販売時期による単価の違いについての説明がありました。岩手県森林組合連合会からは、最近の合板工場はコスト意識の高まりにより、搬入材の品質を厳しくみるようになった、との情報提供がありました。

その後、参加者は10名程度の班に分かれ、サクラ、ブナ、クリ、ミズメの採材方法を検討しました。

各班では「この腐れは除いた方が良い」「このくらいの曲がりなら売れる」など積極的な意見交換が行われました。検討後は岩手県森林組合連合会より、採材の講評のほか、岩手県の広葉樹は需要が高いため積極的に出材してほしい、との要望が出されました。



採材方法の検討の様子

また、岩手県伐木技術指導員の細川 稔氏及び大船渡労働基準監督署署長 西村 浩二氏による労働防止講話がありました。細川氏は実際にブナを伐採し、伐木の各動作における注意点について指導がありました。参加者からは「他人の伐倒を見る機会はありませんので、参考になった。安全意識を再認識することができた」との声が聞かれました。



伐根の検討

今後も、このような会を開催し、管内の林業事業者の情報共有の場をつくとともに、林業の安全性の向上に努めていきたいと思っております。